

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	四国医療専門学校
設置者名	学校法人大麻学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	HPにて公表 http://www.459.ac.jp/public/
収支計算書又は損益計算書	HPにて公表 http://www.459.ac.jp/public/
財産目録	HPにて公表 http://www.459.ac.jp/public/
事業報告書	HPにて公表 http://www.459.ac.jp/public/
監事による監査報告書	HPにて公表 http://www.459.ac.jp/public/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸マッサージ学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,835時間/100単位 単位時間/単位	1,725/65 単位時間 /単位	210/7 単位時間 /単位	180/4 単位時間 /単位	720/24 単位時間 /単位	
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		85人	0人	12人	12人	24人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各授業科目について、授業科目名、科目の区分（基礎科目、専門基礎科目、専門科目、専門関連科目）、履修学年、履修時期（前期、後期、通年）、時間、必選別、担当教員、授業の概要（この科目で何を学習するか、また実務経験のある教員などについてはその旨）及び到達目標、授業計画（授業回数やスケジュール）、学習方法（講義、演習、実技、実習）、評価方法、教科書及び参考書、学生への要望等の項目別に説明文を入れた授業概要を作成し、年度当初にHPにて公表している。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>成績認定（単位修得の認定）と単位修得</p> <p>定期試験において、60点以上（実技定期試験は可以上）の成績を得、次学年への進級や卒業が認定された者には所定の単位が与えられる。これを学校側からは単位修得の認定、学生側からは単位修得という。ただし、進級や卒業が認定されなかった場合も当該学年で修得した基礎分野の単位は認定することがある。</p> <p>(1) 講義・演習の成績評価</p> <p>秀・・・90点以上</p> <p>優・・・80点以上90点未満</p> <p>良・・・70点以上80点未満</p>

<p>可・・・60点以上70点未満 不可・・・60点未満 (2) 実技・実習の成績評価 秀、優、良、可、不可の5段階とし、可以上を合格とする。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>1. 進級認定 進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を修得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が認定する。また、進級の条件に、補習授業の受講や課題の提出等が附帯する場合がある。</p> <p>2. 卒業認定 卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を修得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>授業内容の確認試験（1、2年次）、国家試験模擬試験（3年次）及び同試験において学習到達度の低い学生に対して補習授業と課題提出を実施。放課後等の空き時間を利用し、実技系科目を含めた補習授業を実施。昼夜間部開講の特徴を活かし、当該学年で開講される授業等の希望者に対する聴講制度の実施。担任による定期的な学生面談及び緊急性や必要に応じての四者面談（保証人、学科長を含む）の実施。学生が自由に利用できる Web を用いた学習支援サイト（e-459）の開設。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25人 (100%)	1人 (4.0%)	21人 (84.0%)	3人 (12.0%)
(主な就職、業界等) 施術所、介護施設、その他			
(就職指導内容) 職場説明会、担任等による就職面談			
(主な学修成果（資格・検定等）) あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
83 人	3 人	3.6%
(中途退学の主な理由) 学業不振、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任等による学生面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸学科 1 部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2,655 時間／94 単位 単位時間／単位	1,635/62 単位時間/ 単位	240/8 単位時間 /単位	180/4 単位時間 /単位	単位時間 /単位	600/20 単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		14 人	0 人	12 人	11 人	23 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各授業科目について、授業科目名、科目の区分（基礎科目、専門基礎科目、専門科目、専門関連科目）、履修学年、履修時期（前期、後期、通年）、時間、必選別、担当教員、授業の概要（この科目で何を学習するか、また実務経験のある教員などについてはその旨）及び到達目標、授業計画（授業回数やスケジュール）、学習方法（講義、演習、実技、実習）、評価方法、教科書及び参考書、学生への要望等の項目別に説明文を入れた授業概要を作成し、年度当初に HP にて公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績認定（単位取得の認定）と単位修得</p> <p>定期試験において、60 点以上（実技定期試験は可以上）の成績を得、次学年への進級や卒業が認定された者には所定の単位が与えられる。これを学校側からは単位修得の認定、学生側からは単位修得という。</p> <p>ただし、進級や卒業が認定されなかった場合でも、当該学年で修得した基礎分野の単位は認定することがある。</p> <p>(1) 講義・演習の成績評価</p> <p>秀・・・90 点以上</p> <p>優・・・80 点以上 90 点未満</p> <p>良・・・70 点以上 80 点未満</p> <p>可・・・60 点以上 70 点未満</p> <p>不可・・・60 点未満</p> <p>(2) 実技・実習の成績評価</p> <p>秀、優、良、可、不可の 5 段階とし、可以上を合格とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 進級認定</p> <p>進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を修得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が認定する。また、進級の条件に、補習授業の受講や課題の提出等が附帯する場合がある。</p> <p>2. 卒業認定</p> <p>卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を修得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p>

学修支援等
(概要) 授業内容の確認試験（1、2年次）、国家試験模擬試験（3年次）及び同試験において学習到達度の低い学生に対して補習授業と課題提出を実施。放課後等の空き時間を利用し、実技系科目を含めた補習授業を実施。昼夜間部開講の特徴を活かし、当該学年で開講される授業等の希望者に対する聴講制度の実施。担任による定期的な学生面談及び緊急性や必要に応じての四者面談（保証人、学科長を含む）の実施。学生が自由に利用できる Web を用いた学習支援サイト（e-459）の開設。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
9人 (100%)	0人 (0.0%)	7人 (77.8%)	2人 (22.2%)
(主な就職、業界等) 施術所、その他			
(就職指導内容) 職場説明会、担任等による就職面談			
(主な学修成果（資格・検定等）) はり師、きゅう師			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任等による学生面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸学科 2 部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	夜	2,655 時間／94 単位 単位時間／単位	1,635/62 単位時間/ 単位	240/8 単位時間 /単位	180/4 単位時間 /単位	単位時間 /単位	600/20 単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		8 人	0 人	12 人	6 人	18 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各授業科目について、授業科目名、科目の区分（基礎科目、専門基礎科目、専門科目、専門関連科目）、履修学年、履修時期（前期、後期、通年）、時間、必選別、担当教員、授業の概要（この科目で何を学習するか、また実務経験のある教員などについてはその旨）及び到達目標、授業計画（授業回数やスケジュール）、学習方法（講義、演習、実技、実習）、評価方法、教科書及び参考書、学生への要望等の項目別に説明文を入れた授業概要を作成し、年度当初に HP にて公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>成績認定（単位修得の認定）と単位修得</p> <p>定期試験において、60 点以上（実技定期試験は可以上）の成績を得、次学年への進級や卒業が認定された者には所定の単位が与えられる。これを学校側からは単位修得の認定、学生側からは単位修得という。ただし、進級や卒業が認定されなかった場合も当該学年で修得した基礎分野の単位は認定することがある。</p> <p>(1) 講義・演習の成績評価</p> <p>秀・・・90 点以上</p> <p>優・・・80 点以上 90 点未満</p> <p>良・・・70 点以上 80 点未満</p> <p>可・・・60 点以上 70 点未満</p> <p>不可・・・60 点未満</p> <p>(2) 実技・実習の成績評価</p> <p>秀、優、良、可、不可の 5 段階とし、可以上を合格とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 進級認定</p> <p>進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を修得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が認定する。また、進級の条件に、補習授業の受講や課題の提出等が附帯する場合がある。</p> <p>2. 卒業認定</p> <p>卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を取得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p>

学修支援等
(概要) 授業内容の確認試験（1、2年次）、国家試験模擬試験（3年次）及び同試験において学習到達度の低い学生に対して補習授業と課題提出を実施。放課後等の空き時間を利用し、実技系科目を含めた補習授業を実施。昼夜間部開講の特徴を活かし、当該学年で開講される授業等の希望者に対する聴講制度の実施。担任による定期的な学生面談及び緊急性や必要に応じての四者面談（保証人、学科長を含む）の実施。学生が自由に利用できる Web を用いた学習支援サイト（e-459）の開設。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
10人 (100%)	0人 (0%)	6人 (60.0%)	4人 (40.0%)
(主な就職、業界等) 施術所、介護施設、その他			
(就職指導内容) 職場説明会、担任等による就職面談			
(主な学修成果（資格・検定等）) はり師、きゅう師			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	1人	5.3%
(中途退学の主な理由) 家庭都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任等による学生面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	柔道整復学科 1 部	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2,760 時間／113 単位 単位時間／単位	1,530/80 単位時間 /単位	330/11 単位時間 /単位	180/4 単位時間 /単位	720/18 単位時間 /単位	
単位時間／単位							
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90 人	56 人	0 人	7 人	14 人	19 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各授業科目について、授業科目名、科目の区分（基礎科目、専門基礎科目、専門科目、）、履修学年、履修時期（前期、後期、通年）、時間、必選別、担当教員、授業の概要（この科目で何を学習するか、また実務経験のある教員などについてはその旨）及び到達目標、授業計画（授業回数やスケジュール）、学習方法（講義、演習、実技、実習）、評価方法、教科書及び参考書、学生への要望等の項目別に説明文を入れた授業概要を作成し、年度当初に HP にて公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>講義、実習等に必要な時間を取得しており、かつ、当該科目の成績において 60 点以上の成績を得た者には、所定の単位が与えられる。</p> <p>(1) 講義・演習・実習・実技の成績は以下のとおりである。</p> <p>秀・・・90 点以上</p> <p>優・・・80 点以上 90 点未満</p> <p>良・・・70 点以上 80 点未満</p> <p>可・・・60 点以上 70 点未満</p> <p>不可・・・60 点未満</p> <p>(2) 臨床実習の成績評価</p> <p>実習指導者の評価にもとづいて、学科内で総合的に判断し、上記のとおり最終評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 進級認定</p> <p>進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を修得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p> <p>2. 卒業認定</p> <p>卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての単位を修得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p>

学修支援等			
(概要) 模擬試験を頻回に実施し、学生の苦手なところを顕在化し、レポート作成や指導で学力の底上げを図っている。また、必要に応じて補習なども実施している。			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15人 (100%)	1人 (6.7%)	14人 (93.3%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 接骨院等の施術所、介護施設			
(就職指導内容) 就職希望調査やアンケートをもとに、担任や就職支援担当教員による個別指導を実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 柔道整復師国家試験受験資格 日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者 日本パラスポーツ協会公認 初級パラスポーツ指導員 赤十字ベーシックライフサポーター			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
61人	2人	3.3%
(中途退学の主な理由) 他進路への変更、心身の疾患		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任教員による個別面談を数回実施して学生状況を把握し、状況に応じ学科長及び担任教員による保護者面談を実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	柔道整復学科 2 部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	夜	2,760 時間／113 単位 単位時間／単位	1,530/80 単位時間 /単位	330/11 単位時間 /単位	180/4 単位時間 /単位	720/18 単位時間 /単位	
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90 人		8 人	0 人	7 人	2 人	8 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 各授業科目について、授業科目名、科目の区分 (基礎科目、専門基礎科目、専門科目、専門関連科目)、履修学年、履修時期 (前期、後期、通年)、時間、必選別、担当教員、授業の概要 (この科目で何を学習するか、また実務経験のある教員などについてはその旨) 及び到達目標、授業計画 (授業回数やスケジュール)、学習方法 (講義、演習、実技、実習)、評価方法、教科書及び参考書、学生への要望等の項目別に説明文を入れた授業概要を作成し、年度当初に HP にて公表している。
成績評価の基準・方法
(概要) 講義、実習等に必要の時間を取得しており、かつ、当該科目の成績において 60 点以上の成績を得た者には、所定の単位が与えられる。 (1) 講義・演習・実習・実技の成績は以下のとおりである。 秀・・・90 点以上 優・・・80 点以上 90 点未満 良・・・70 点以上 80 点未満 可・・・60 点以上 70 点未満 不可・・・60 点未満 (2) 臨床実習の成績評価 実習指導者の評価にもとづいて、学科内で総合的に判断し、上記のとおり最終評価する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 1. 進級認定 進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を修得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。 2. 卒業認定 卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての単位を修得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。
学修支援等
(概要) 模擬試験を頻回に実施し、学生の苦手なところを顕在化し、レポート作成や指導で学力の底上げを図っている。また、必要に応じて補習なども実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5人 (100%)	0人 (0%)	5人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 接骨院等の施術所、介護施設			
(就職指導内容) 就職希望調査やアンケートをもとに、担任や就職支援担当教員による個別指導を実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 柔道整復師国家試験受験資格 日本トレーニング指導者協会認定 トレーニング指導者 日本パラスポーツ協会公認 初級パラスポーツ指導員 赤十字ベーシックライフサポーター			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15人	2人	13.3%
(中途退学の主な理由) 家庭経済状況の変化、心身の疾病		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任教員による個別面談を数回実施して学生状況を把握している。状況に応じ学科長及び担任教員による保護者面談を実施		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,705時間／130単位 単位時間／単位	1,710/75 単位時間 /単位	510/19 単位時間 /単位	1,215/27 単位時間 /単位	単位時間 /単位	270/9 単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
144人		118人	0人	7人	36人	43人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各授業科目について、授業科目名、科目の区分（基礎科目、専門基礎科目、専門科目、専門関連科目）、履修学年、履修時期（前期、後期、通年）、時間、必選別、担当教員、授業の概要（この科目で何を学習するか、また実務経験のある教員などについてはその旨）及び到達目標、授業計画（授業回数やスケジュール）、学習方法（講義、演習、実技、実習）、評価方法、教科書及び参考書、学生への要望等の項目別に説明文を入れた授業概要を作成し、年度当初にHPに公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>講義、実習等に必要の時間を取得しており、かつ、当該科目の成績において60点以上の成績を得た者には、所定の単位が与えられる。</p> <p>(1) 講義・演習・実習・臨床実習の成績は以下のとおりである。</p> <p>秀・・・90点以上 優・・・80点以上90点未満 良・・・70点以上80点未満 可・・・60点以上70点未満 不可・・・60点未満</p> <p>(2) 臨床実習の成績評価</p> <p>実習指導者の評価にもとづいて、学科内で総合的に判断し、上記のとおり最終評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 進級認定</p> <p>進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を修得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p> <p>2. 卒業認定</p> <p>卒業認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を修得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>1年次から3年次までは、ゼミナールの時間を利用し、基礎科目の内容の強化や通常カリキュラム内容の復習を行い、学習を支援する。</p> <p>また、校内作成や業者作成の模擬試験などを実施し、学力の把握や苦手科目の対策を実施する。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）				
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他	
24人 (100%)	0人 (0%)	24人 (100.0%)	0人 (0%)	
(主な就職、業界等) 病院、診療所等の医療業界、通所介護施設等				
(就職指導内容) 就職希望アンケートにて学生個々のニーズを把握し、求人施設への就職適性の検討、就職説明会の開催などの支援を通じ、学生本人にとって最適、かつ、納得できる就職先の選択へと導いていく。面談、施設見学、面接指導、履歴書指導も必要に応じて行う。				
(主な学修成果（資格・検定等）) 理学療法士、福祉住環境コーディネーター2級、社会人基礎力検定 日本パラスポーツ協会公認 初級パラスポーツ指導員				
(備考)（任意記載事項） 旧課程の学生が若干名在籍している。 上記表中は新課程の各時間数、下記は旧課程の内容 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 3,810時間／159単位				
講義	演習	実習	実験	実技
1,650/95 単位時間 /単位	690/28 単位時間 /単位	1,170/26 単位時間 /単位	単位時間 /単位	300/10 単位時間 /単位

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
131人	15人	11.5%
(中途退学の主な理由) 経済的事由、学業不振、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 初年度教育の充実、担任制によるサポート、実習前教育の充実		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	作業療法学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,765時間／131単位 単位時間／単位	1,770/80 単位時間 /単位	510/17 単位時間 /単位	1,215/27 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	270/7 単位時間 /単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		84人	0人	7人	32人	39人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各授業科目について、授業科目名、科目の区分（基礎科目、専門基礎科目、専門科目、専門関連科目）、履修学年、履修時期（前期、後期、通年）、時間、必選別、担当教員、授業の概要（この科目で何を学習するか、また実務経験のある教員などについてはその旨）及び到達目標、授業計画（授業回数やスケジュール）、学習方法（講義、演習、実技、実習）、評価方法、教科書及び参考書、学生への要望等の項目別に説明文を入れた授業概要を作成し、年度当初にHPにて公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>講義、実習等に必要な時間を取得しており、かつ、当該科目の成績において60点以上の成績を得た者には、所定の単位が与えられる。</p> <p>(1) 講義・演習・実習・臨床実習の成績は以下のとおりである。</p> <p>秀・・・90点以上 優・・・80点以上90点未満 良・・・70点以上80点未満 可・・・60点以上70点未満 不可・・・60点未満</p> <p>(2) 臨床実習の成績評価</p> <p>実習指導者の評価にもとづいて、学科内で総合的に判断し、上記のとおり最終評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 進級認定</p> <p>進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を修得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p> <p>また、進級の条件に、補習授業の受講や課題の提出等が附帯する場合がある。</p> <p>2. 卒業認定</p> <p>卒業認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての科目の単位を修得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p>

学修支援等			
(概要)			
1年次から3年次までは、ゼミナールの時間を利用し、基礎科目の内容の強化や通常カリキュラム内容の復習を行い、学習を支援する。また、校内作成や業者作成の模擬試験などを実施し、学力の把握や苦手科目の対策を実施する。			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	11人 (91.7%)	1人 (8.3%)
(主な就職、業界等)			
病院、介護老人保健施設、放課後等デイサービス、通所介護事業所			
(就職指導内容)			
担任を中心に面接等を通して進路を把握し、学生本人にとって最適かつ納得できる就職先の選択へと導いていく。面談、施設見学、面接指導、履歴書指導も必要に応じて行う。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
作業療法士、福祉住環境コーディネーター2級、ビジネス検定3級 日本パラスポーツ協会公認 初級パラスポーツ指導員			
(備考)（任意記載事項）			
1～4年の全ての学年で新課程に移行となった。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
91人	6人	6.6%
(中途退学の主な理由)		
進路変更、学業不振、経済的事由、個人的事情		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
担任教員を中心とした頻回な相談・面談（保護者との3者面談含む）		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	看護学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,810時間/137単位 単位時間/単位	2,100 単位時間 89/単位	330 単位時間 14/単位	1,080 単位時間 24/単位	300 単位時間 10/単位	
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
300人		160人	0人	14人	83人	97人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各授業科目について、授業科目名、科目の区分（共通科目、専門科目、現場実習）、履修学年、履修時期（前期、後期、通年）、時間、必選別、担当教員、授業の概要（この科目で何を学習するか、また実務経験のある教員などについてはその旨）及び到達目標、授業計画（授業回数やスケジュール）、学習方法（講義、演習、実技、実習）、評価方法、教科書及び参考書、学生への要望等の項目別に説明文を入れた授業概要を作成し、年度当初にHPにて公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>講義、実習等に必要な時間を取得しており、かつ、当該科目の成績において60点以上の成績を得た者には、所定の単位が与えられる。</p> <p>(1) 講義・演習・実習・臨地実習の成績は以下のとおりである。</p> <p>秀・・・90点以上 優・・・80点以上90点未満 良・・・70点以上80点未満 可・・・60点以上70点未満 不可・・・60点未満</p> <p>(2) 臨地実習の成績評価</p> <p>実習指導者の評価にもとづいて、学科内で総合的に判断し、上記のとおり最終評価する。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>1. 進級認定</p> <p>進級の認定は、当該学年で履修すべき科目全ての単位を修得していることを原則とし、授業の出席状況及び受講態度等を学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p> <p>2. 卒業認定</p> <p>卒業の認定は、出席時間数が所定の時間数を満たし、在学期間に履修しなければならないすべての単位を修得していることを原則とし、学科会議にて総合的に判断し、学校運営会議及び教員会議の議を経て、学校長が決定する。</p>

学修支援等
(概要) 基礎科目のワークを利用した全体への補習、個別指導、学生をピアサポートグループに分けてグループ指導を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）				
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他	
51人 (100%)	0人 (0.0%)	51人 (100%)	0人 (0%)	
(主な就職、業界等) 医療機関（病院、地域医療支援病院、特定機能病院等）				
(就職指導内容) 担任を中心に面接等を通して進路希望を把握し、履歴書の書き方、添削指導を行う。 各病院の募集ガイドの紹介、就職説明会の紹介、インターンシップの紹介を行う。 また、就職試験前には模擬就職面接を実施する。指導も必要に応じて行う。				
(主な学修成果（資格・検定等）) 看護師、高度専門士、社会福祉学士、社会福祉主事任用資格、BLS				
(備考)（任意記載事項） 1・2・3年生は新課程、4年は旧課程。上記記載は新課程にて全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数及び開設している授業の種類を記載。 下記に旧課程を記載。3,660時間/134単位 単位時間/単位				
講義	演習	実習	実験	実技
1,455 単位時間 70/単位	475 単位時間 18/単位	1,170 単位時間 26/単位	0 単位時間 0/単位	560 単位時間 20/単位

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
185人	11	5.9%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、対人関係、体調不良、経済的な理由等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別面談を実施し、学習状況と悩みや不安の確認。また、学習困難者、成績不良者、出席率不良者出席率の悪い学生は家族への連絡・相談、適宜カウンセラーへの紹介		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
鍼灸マッサージ学科	300,000 円	1,510,000 円	50,000 円	実習費/年間
鍼灸学科 1 部	300,000 円	1,000,000 円	50,000 円	実習費/年間
鍼灸学科 2 部	300,000 円	880,000 円	50,000 円	実習費/年間
柔道整復学科 1 部	300,000 円	1,000,000 円	50,000 円	実習費/年間
柔道整復学科 2 部	300,000 円	880,000 円	50,000 円	実習費/年間
理学療法学科	300,000 円	1,070,000 円	180,000 円	実習費/年間
作業療法学科	300,000 円	1,070,000 円	180,000 円	実習費/年間
看護学科	300,000 円	830,000 円	180,000 円	実習費/年間
修学支援 (任意記載事項)				
特待生制度、夜間部併修者優遇制度、修学支援給付金支給制度、同時入学優遇制度、 在校生・卒業生優遇制度、ご家族優遇制度 専門実践教育訓練給付金制度、日本学生支援機構奨学金、交通遺児育英会、あしなが 育英資金ほか、日本政策金融公庫、百十四銀行、オリエントコーポレーション等				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) HPにて公開 http://www.459.ac.jp/public
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 本校では、建学の精神及び教育目標とそれに基づく教育活動その他の学校運営の状況について、本校の教育活動と学校運営の水準の向上及び改善に資するため、自己点検・評価を実施している。学校関係者評価は、自己点検・評価の結果に基づき、実践的な職業教育に係る関係業界等のニーズを踏まえた質の高い職業教育、関係業界等との相互の課題やニーズ等の共有、実質的な連携強化、必要な人材養成、教育活動及び学校運営の改善を図ることを基本方針としている。 学校関係者評価の実施方法は、本校学則第4条の規定に基づき、自己点検・評価結果について、年1回上半期に定期的に開催する「学校関係者評価委員会」において、外部の方々からのご意見、ご提言及び改善事項などの評価を行っている。実施体制は、本校学校関係者評価委員会規程に基づき、地域住民、本校と関連のある高等学校関係者、学生保護者、本校卒業生及び業界団体等からの委員で構成されている。その他として、学校長、副学校長、学校事務局長、各学科長及び学校事務局関係者が陪席し、全校で対応している。また、学校関係者評価の結果については、本校ホームページ上で公表を行っている。

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
基礎自治体の長	2023. 4. 1～2025. 3. 31	地域住民代表
香川県立高等学校長	2023. 4. 1～2025. 3. 31	高校関係者
香川県立高等学校長	2023. 4. 1～2025. 3. 31	高校関係者
香川県立高等学校長	2023. 4. 1～2025. 3. 31	高校関係者
保護者（看護学科学生の保護者）	2023. 4. 1～2025. 3. 31	保護者代表
鍼灸学科卒業生	2023. 4. 1～2025. 3. 31	卒業生代表
看護学科卒業生	2023. 4. 1～2025. 3. 31	卒業生代表
（公社）香川県柔道整復師会 会長	2023. 4. 1～2025. 3. 31	業界団体関係者
（一社）香川県鍼灸マッサージ師会 会長	2023. 4. 1～2025. 3. 31	業界団体関係者
（一社）香川県鍼灸師会 理事	2023. 4. 1～2025. 3. 31	業界団体関係者
（一社）香川県理学療法士会 理事	2023. 4. 1～2025. 3. 31	業界団体関係者
（一社）香川県作業療法士会 理事	2023. 4. 1～2025. 3. 31	業界団体関係者
（公社）香川県看護協会 会長	2023. 4. 1～2025. 3. 31	業界団体関係者
学校関係者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） HPにて公開 http://www.459.ac.jp/public		
第三者による学校評価（任意記載事項）		
1. 令和3年に理学療法学科と作業療法学科が、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の評価を受審し、リハビリテーション教育に必要な施設基準及びカリキュラムを提供実施できる養成施設として認定を受けている。 2. 平成29年に鍼灸マッサージ学科が特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構による外部評価を受審し認定を受けている。		

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） ホームページアドレス http://www.459.ac.jp/
